

令和2年度(2020年度)セタシジミ肥満度モニタリング

井戸本純一・草野 充

1. 目的

セタシジミの産卵前の肥満度は近年大きく変動しており、北湖一円の漁場で値に差はあるものの、その増減傾向はほぼ一致している。全湖的な現象と考えられるこの変動をより詳細にとらえるため、2010年度以降、主要漁場の一つで水深の幅が広い松原漁場において肥満度のモニタリング調査を実施している。

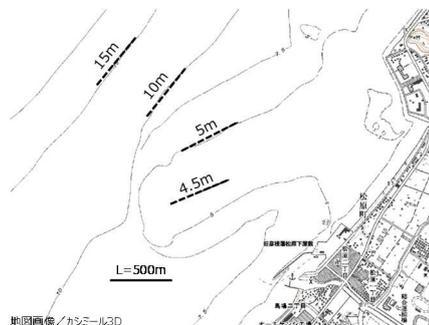


図1 松原漁場の水深別定線（破線）。

2. 方法

彦根市松原町地先のシジミ漁場に等深線と平行に4本の調査定線を設けた（図1）。ほぼ毎月、調査用定量桁網（採取幅8cm、袋網の目合い20mm）を用いて定線上で採集調査を実施し、成貝について漁場別調査と同じ方法で肥満度を測定した。

3. 結果

各定線における肥満度の推移を図2に示した。2020年の肥満度は、前年11月から徐々に回復しはじめ、1月には平均2.5%、3月には2.9%と前年をやや上回る速度で上昇し、4月には3.5%に達した。しかし、5月には平均3.3%と産卵前にもかかわらず低下し、産卵が7月以降となる水深10mでは4月の3.7%か

ら6月の2.5%まで漸減した。この時期に琵琶湖では群体性のオビケイソウが異常繁殖しており、その影響が考えられる。

水深10mの肥満度は、7月の2.3%から8月には1.6%に低下し、解剖所見からも産卵が確認されたが、水深15mでは9月になっても2.1%にまでしか下がらず、多くの卵が肉眼で確認されたことから、産卵に至らなかった可能性がある。

全水深で最低となった9月の肥満度は平均1.7%で、前年最低だった10月の1.5%を上回った。さらに、10月には2.1%と回復しはじめ、2021年1月には3.4%、3月には4.2%と数年ぶりの速度で順調に肥満度が上昇している。

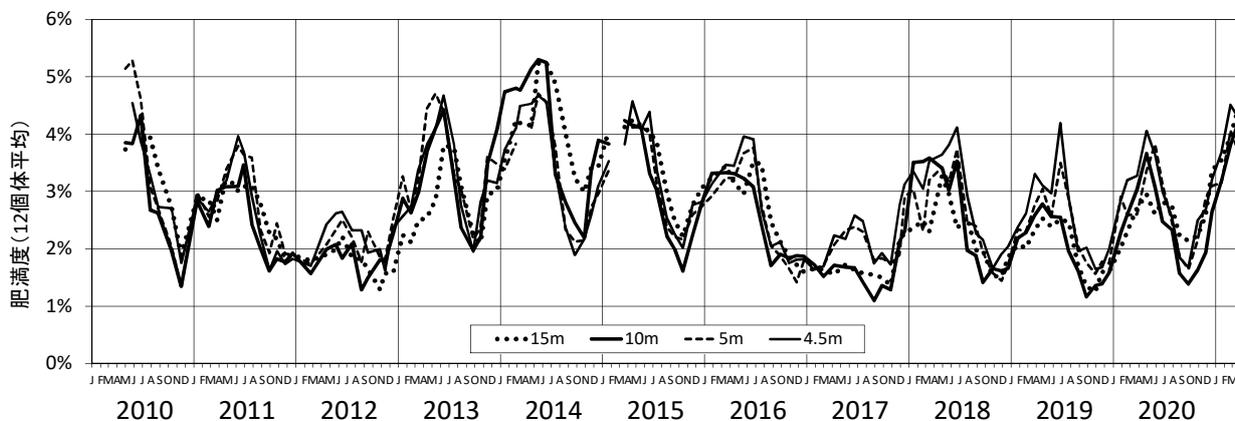


図2 松原漁場の水深別定線におけるセタシジミの肥満度の推移。

肥満度(%) = 貝の中身（軟体部）の乾燥重量 / 貝全体の重量（貝殻および内部の水を含む） × 100
本報告は滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の成果の一部である。